

地震一口メモ No.162

2018年11月2日 紀伊水道の地震について

11月2日16時53分に発生した紀伊水道の地震（深さ44km、M5.4）について解説します。

この地震では、和歌山県と徳島県で震度4を観測したほか、大阪府でも震度3～1を観測しました。また、この地震の発生後、11月30日現在、この地震とほぼ同じ場所（図2の領域b内）で震度1以上を観測した地震が4回（最大震度3：1回、最大震度1：3回）発生しています。

図3をみると、今回の地震の震源付近（図2の領域b内）は、過去マグニチュード4.0以上の地震が時々発生するなど、もともと地震活動が見られている場所であることがわかります。

今回の地震はフィリピン海プレート内部で発生した地震でした。想定されている南海トラフ巨大地震は、陸のプレートとフィリピン海プレートの境界で発生するものです。発生のタイプが異なるため、南海トラフ巨大地震とは直接の関係はないと思われます。

また、11月7日に開催された「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」（定例）において、「現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。」と評価されています*。

*南海トラフ地震に関連する情報（定例） <http://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>

一方、日本国内では、いどこで強い揺れを伴う地震が発生してもおかしくありません。今回の地震で不安に思われた方はもちろん、そうでない方も、この機会に家具の固定、寝室やリビングなどの安全確保などの備えや避難方法の確認などをおこなうなど、地震への備えをお願いします。

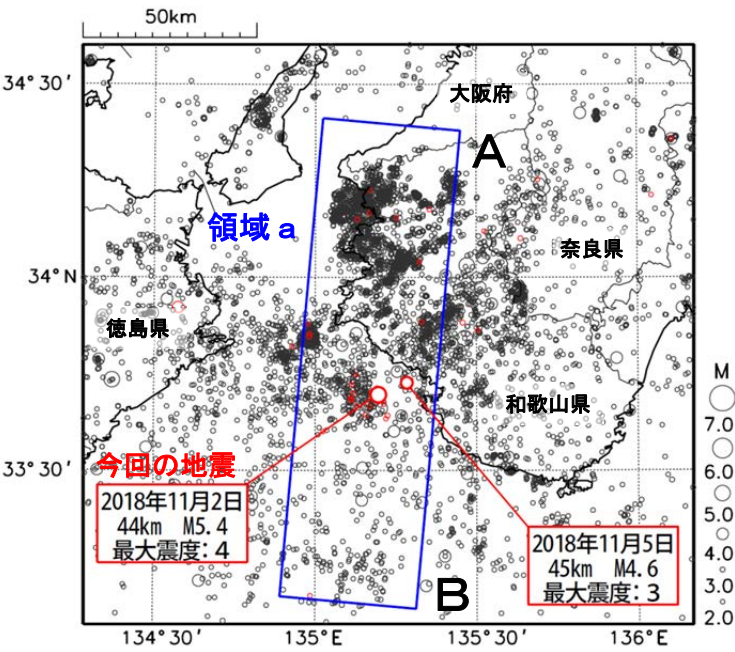


図1 震央分布図
1997年10月1日～2018年11月30日
深さ0～80km、マグニチュード（M）2.0以上
2018年11月1日以降を赤○で表示

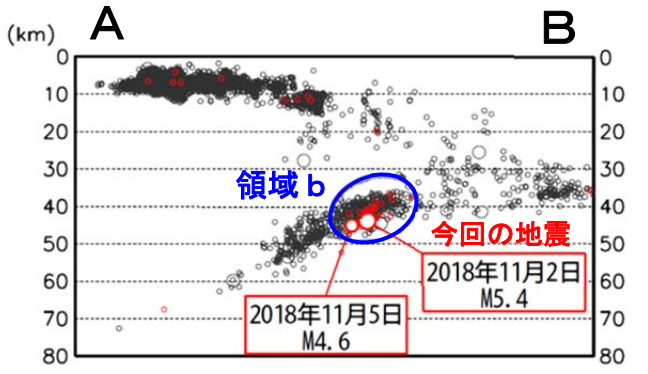


図2 図1の領域a内のA-B断面図

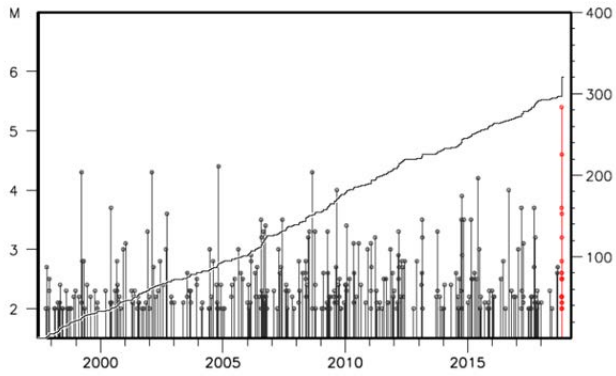


図3 図2の領域b内の地震活動経過及び回数積算図